

地域連携による小児歯科からの摂食嚥下リハビリテーション



特定非営利活動法人南日本口腔機能支援研究会
理事長 佐藤 秀夫

略 歴

職歴

平成16年 鹿児島大学歯学部卒業
平成20年 鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科 博士課程修了
平成20年 鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科 小児歯科学分野 助教
平成22年 昭和大学歯学部 口腔衛生学教室 研修
平成22年 鹿児島大学病院 小児歯科「もぐもぐ外来」開設
平成26年 鹿児島大学病院 発達系歯科センター 小児歯科 講師
平成29年 スタンフォード大学医学部精神科 客員研究員
平成30年 特定非営利活動法人南日本口腔機能支援研究会 理事長
現在に至る

鹿児島大学 小児歯科では、発達期のトータルオーラルケアを目標に全人的歯科治療を実践しており、発達期摂食嚥下リハビリテーションを目的とした「もぐもぐ外来」を2010年に開設し現在に至っている。2018年度の当科の初診患者の約2割が摂食嚥下障害または口腔機能発達不全症など「食べること」に関するものであり、小児歯科の専門領域として同需要が高まっていることが推察される。これらの患者の平均年齢は3歳9か月と低年齢であり、顎顔面形態異常、神経筋疾患、染色体異常など原因疾患は多種にわたっており、小児科、小児外科など医科からの紹介が多数であった。対応としては、必要に応じて嚥下造影検査も活用しながら、口腔機能の獲得に主眼に置き、患児に関わる専門職・保護者と緊密に連携を進めるようにしている。ケースによっては、経口摂取と経管栄養のどちらが適切か保護者や医師と悩み相談しながら診断を下すこともある。他方、多職種と関わる上で、外来診療のみでは、効果的な指導が限定的なことも多くあるため、他施設における訪問指導も実施している。特別支援学校においては、食べる機能の発達段階に応じた適切な食事形態や介助方法を教員と協働しながら考え、安全で楽しい給食環境の構築に貢献している。さらに、鹿児島県は離島地域を有しており、事情により大学病院への通院が困難なことも多く、同地域の拠点病院における外来診療支援も積極的に行っている。最近においては地域における連携をより積極的に推進する目的で「発達期摂食指導講習会」を開催し地域での多職種との連携を深める努力をしている。発達期摂食嚥下リハビリテーションに取り組むことで小児歯科の専門性が深化し、地域における自身の役割を俯瞰できるようになったことが成果と考える。